



平成二十七年 度

土浦日本大学中等教育学校 一般入試「第一回」問題用紙

国 語

(試験時間四十五分)

解答上の注意

- 1 「はじめ」の合図があるまで、本冊子を開かないこと。
- 2 解答は、所定の解答欄にはつきりと読みやすい字で書くこと。
- 3 漢字は楷書かいしよを用いてはつきりと記入すること。
- 4 机の上には、「受験票」「筆記用具」以外のものを置かないこと。
- 5 携帯電話等の電子機器の電源はすべて切っておくこと。

受験番号

氏 名

一

次の例にならない、与えられた漢字の部首を組み合わせてできる漢字一字を答えなさい。

例

功+町↓男 功の部首は「ちから(力)」、町の部首は「たへん(田)」。組み合わせると「男」になる。
なお、「心」という字を「忄(りっしんべん)」に、または「忄」を「心」のように、形を変えて使ってもよい。

① 宅+姉↓

② 閉+晴↓

③ 断+送↓

④ 泉+気↓

⑤ 材+枝+社↓

二

西小学校の放送委員会の中村さんは、学校の男子ミニバスケットボール部の試合結果を、昼休みの校内放送で全校に伝えることにしました。【取材メモ】の情報がすべて伝わるように、【放送原こう】の空らんにはまる内容を一文で書きなさい。

【取材メモ】

- ① 市大会決勝戦で北小に勝ち初優勝した。
- ② 市大会は七月十日(金)に行われた。
- ③ 決勝戦前半は十点差で負けていた。
- ④ 後半開始早々、バスを全員で回すことで逆転した。
- ⑤ 最終的には二十点差で勝った。
- ⑥ 次の試合は県大会。
- ⑦ 県大会は七月二十日(日)に行われる。

【放送原こう】

……次は、男子ミニバスケットボール部の試合結果をお知らせします。男子ミニバスケットボール部は、七月十日金曜日に行われた市大会決勝戦で北小学校を下し、創部以来初となる優勝を果たしました。

次の試合は七月二十日日曜日の県大会です。みなさんもぜひ応援してください。……

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(抜き出しの場合には句読点も一字に数えます。)

読書というと、本を読むことが読書だと考えられています。読んでこそその本というのは確かですが、読む読書が、読書のすべてなのではありません。① 読まない読書もまた、本来はとても重要な読書だからです。

読まない読書というのは、読む前の読書ということですが、読む前に、その本が目前になければ、その本を読むことはできません。読もうにも、目の前にない本は読むことができないからです。読まない読書というのは、ですから、「読む」ということの前に、「本がここにあり」ということの大事さを受けとめるということです。

読書というのは、本とどう付き合うかということです。けれども、読む読書ばかりが、つまり、情報としての読書ばかりが優先されるようになってきて、いま、損なわれてきている、崩れてきていると感じるのは、本とどう付き合うか、それぞれの、本との付き合い方の流儀② 流儀です。

何を読むかではなく、どこで、どんな時間に、どんな姿勢、どんな気分で読むか。本を読むということは、本来そういう自分の流儀をまもる、確かめるといふセイシツをもつものでもあったはずだし、あるはずですが、もつとずつと考えられなければならないのは、本という文化のそもそものありようなのではないでしょうか。

本という文化をつくり、ささえてきたのは、本のつくってきた様式でした。

たとえば、紙の本がつくってきた「綴じる」という技術が生んだ様式。その「綴じる」という様式は、読まない読書、読む前の読書、「本がここにある」ということの大事さというものを、とほうもないほどゆたかにして、いわば本の世界のゆたかな腐葉土③ 腐葉土をつくってきました。そのようにきちんと「綴じられた」確かな本があつて、読書の世界はゆたかな収穫の季節をかさねてきました。

あるいは、本の「かたち」です。どんなかたちだろうと本は本、なのではありません。精神のヨウキ④ 精神のヨウキとしての本のゆたかさをつくってきたのは、いつのときも本の「かたち」でした。

本のかたちがそのまま本の世界をタイゲン⑤ タイゲンしてきたということも少なくありません。読まない読書、読む前の読書、「本がここにある」ということの大事さというものを、途方もないほどゆたかにしてきたのも、本の「かたち」です。本の記憶というものをいつでも確かにしてきたのも、本の生まれた時代の空気をしばしばあざやかにのこしてきたのも、本の「かたち」です。

活字、数字、書体、色、余白、紙。読む前の読書というものを可能にしてきたものは、「本がここにある」ということを、わたしたちの

目の前に示してきた、こうした本を本たらしめてきた一切のものです。

せんだって、わたしは『本を愛しなさい』という小さな本を出しました(みすず書房)。書名の「本を愛しなさい」というのは、わたしがそう言ったわけではありません。「本を愛しなさい」と、ある日わたしが目の前の本に言われた。それを書名にした本です。そのとびらに、短い詩を書きました。

本を愛しなさい、と

人生のある日、ことばが言った。

そうすれば百年の知己になる。

見知らぬ人たちとも。

風を運ぶ人とも。

死者たちとも。

餅とも。

はじめに本があつて、読書はそれから始まる。

本というものは、そして言葉というものは、もともと誰かの所有に帰するものではない。わたしはそう考えています。本というもの、言葉というものは、本来、所有するものではなく、預かり物です。書くことが言葉を自分の手に預かることであるように、本を求めるといふのは、お金を出して、その本を気のすむまで預かることです。

本を壊して必要なところだけをわがものにするまで読むという人がいます。読む本の勘所⑥ 勘所に二色三色のボールペンで線引きし徹底して読むという人もいます。それはわたしは違うと思う。自ら本を壊したり、本に消せない線を引いたりすれば、自分からすすんで預かった本を、後の時代に返せなくなる。

そうでなく、前の時代、同時代から預かって、そうして、次の時代に返す。読まない読書というのは、④ 本は読んで終わり、なのではないということですが、手わたされて、手わたしてゆく。手わたしの、そのつながりのなかに、じぶんを置くということですが、

言葉というものは、そして本というものは、そうやってくりかえし手わたされていって、サイセイ⑦ サイセイされるべきものはくりかえしサイセイされてゆく。読書というのはいささかというもののならうと、わたしは考えています。

（長田弘『なつかしい時間』より）
 ※作問の都合上、文章の一部を改変しています。

- * 知己……自分をよく理解してくれる人。知人。
- * 榊……木の精。樹木に宿るたましい。
- * 勘所……かんじんなどところ。

問1 傍線部ア～エのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部①「読まない読書もまた、本来はとても重要な読書」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 本の世界だけでは現実の世界を知ったことにはならないので、現実の世界で体を動かして多くの体験をすることが必要だということ。
- イ そもそも本は読むために存在するものなので、本を読まずに本だに飾っておいて満足しているだけでは意味がないということ。
- ウ 本の中の世界は現実には体験することができないので、本を読むときには想像力を思いきりふくらませることが不可欠だということ。
- エ 読む前に本がなければ本を読むことができないので、本が存在することの大事さをまずは受けとめることが大切だということ。

問3 傍線部②「本との付き合い方の流儀」とありますが、これは具体的にどのようなことですか。本文中の言葉を用いて三十五字以内で説明しなさい。

問4 傍線部③「本の『かたち』とありますが、これに当たらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 何も書かれていない部分
- イ 印刷された文字
- ウ 作品が書かれた時代の空気
- エ 紙という素材

問5 本文中の詩について次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 波線部「ことばが言った」で使われている表現技法と同じ技法が使われているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 峠とうげのうえの空は あこがれのようにあまい（真壁仁『峠』より）
- イ 船が散歩する 口笛を吹きながら（堀口大学『海の風景』より）
- ウ ほくらは朝をリレーするのだ 経度から経度へと（谷川俊太郎『朝のリレー』より）
- エ 僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来るでき（高村光太郎『道程』より）

(2) この詩はどのようなことを言うために引用されたものですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 本は所有されるものではなく預かり物であり、読書は本を気のすむまで預かることから始まるということ。
- イ 筆者はそれまで本を乱雑にあつかっていたが、本はきれいな状態に保っておかなければならないということ。
- ウ 現代人は本に見向きもしなくなっているが、本こそは人生の友にするにふさわしい存在だということ。
- エ 特定の人だけが本を独断して本だに収集しているが、本は本来多くの人が楽しむためのものだということ。

問6 傍線部④「本は読んで終わり」とありますが、このような読み方は、どのような読書を指しますか。本文中から八字で抜き出して答えなさい。

問7 近年、紙の本に代わり、携帯電話やタブレット型のコンピュータで手軽に読むことのできる「電子書せき」が広がりを見せています。筆者の考えからすると、この流れは望ましいと言えますか。言えると思う場合は「○」、言えないと思う場合は「×」で答えなさい。またその理由を「本の『かたち』」という言葉を用いて、五十文字以内で答えなさい。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(抜き出しの場合には句読点も一字に数えます。)

昔、「権助」という名前の男がいました。この男は仙人になりたいと考えていたようで、仕事の紹介所の「番頭」にその修行ができる場所を紹介してほしいと頼みにやって来ました。番頭は困り果て近所の「医者」に相談に訪れました。本文はこれに続く場面です。

番頭はとにかく一時のがれに、権助の頼みを引き受けてやりました。が、どこへ奉公させたら、仙人になる修行ができるか、もとよりそんなことなどはわかるはずがありません。ですからひとまず権助を返すと、早速番頭は近所にある医者の方へ出かけて行きました。そうして権助のことを話してから、

①「いかがでしょう？ 先生。仙人になる修行をするには、どこへ奉公するのが近道でしょうか？」と、心配そうにたずねました。

これには医者も困ったのでしよう。しばらくはほんやり腕組みをしながら、庭の松ばかりながめていました。が番頭の話を知ると、すぐに横から口を出したのは、古狐というあだ名のある、狡猾な医者の女房です。

「それはうちへおよこしよ。うちにいれば二三年中には、きつと仙人にしてみせるから」

「さようですか？ それはよいことをうかがいました。ではなにぶん願います。どうも仙人とお医者様とは、どこか縁が近いような心もちがいたしておりますよ」

何も知らない番頭は、しきりにおじぎを重ねながら、大喜びで帰りました。

医者は苦い顔をしたまま、そのあとを見送っていましたが、やがて女房に向かいながら、

「お前は何というばかな事をいうのだ？ もしその田舎者が何年いても、いっこう仙術を教えてくれぬなぞと、不平でも言い出したら、どうする気だ？」といまいましそうに小言をいいました。

しかし女房はあやまるどころか、

X

の先でふふんと笑いながら、

「まあ、あなたはだまっていらつしやい。あなたのようにばか正直では、このせちがらい世の中に、ご飯を食べることもできはしません」と、あべこべに医者をやりにこめるのです。

さて明るくなる日になると約束通り、田舎者の権助は番頭といっしょにやって来ました。今日はさすがに権助も、初のお目見えだと思つたせいか、紋付の羽織を着ていますが、見たところはただの百姓と少しも違つたようすはありません。それがかえって案外だったのでしよう。

医者はまるで天竺から来た麝香獣でも見る時のように、じろじろその顔をながめながら、

「お前は仙人になりたいのだそうだが、一体どういうところから、そんな望みをおこしたのだ？」と、不審そうにたずねました。すると権助が答えるには、

「別にこれという訳もございませんが、ただあの大阪のお城を見たら、太閤様のようにえらい人でも、いつか一度は死んでしまふ、してみれば人間というものは、いくら栄耀栄華をしても、はかないものだと思つたのです」

「では仙人になれさえすれば、どんな仕事でもするだろうね？」

狡猾な医者の女房は、すかさず口を入れました。

「はい。仙人になれさえすれば、どんな仕事でもいたします」

「それでは今日から私の所に、二十年の間奉公おし。そうすればきつと二十年目に、仙人になる術を教えてやるから」

「さようでございますか？ それは何よりありますがどうございます」

「その代わりむこう二十年の間は、一文もご給金はやらないからね」

「はい。はい。承知いたしました」

それから権助は二十年間、その医者の方に使われていました。水をくむ。薪を割る。飯を炊く。ふき掃除をする。おまけに医者の方へ出る時は、薬箱を背負って伴をする。——その上給金は一文でも、くれといったことがないのですから、この位重宝な奉公人は、日本中探してもありません。

が、とうとう二十年たつと、権助はまた来た時のように、紋付の羽織をひっかけながら、主人夫婦の前へ出ました。そうして慇懃に二十年間、世話になった礼を述べました。

「ついでにはかねがお約束の通り、今日は一つ私にも、不老不死になる仙人の術を教えてもらいたいと思ひますが」

権助にこういわれると、閉口したのは主人の医者です。何しろ一文も給金をやらずに、二十年間も使つたあとですから、いまさら仙術は知らぬなぞとは、いえた義理ではありません。医者はそこでしかたなしに、

「仙人になる術を知っているのは、おれの女房の方だから、女房に教えてもらうがよい」と、そつけなく横を向いてしまいました。

しかし女房は平気なものです。

「では仙術を教えてやるから、そのかわりどんなむずかしいことでも、私のいう通りにするのだよ。さもないと仙人になれないばかりか、またむこう二十年の間、ご給金なしに奉公しないと、すぐにばちがあたつて死んでしまうからね」

「はい。どんなむずかしいことでも、きつと^{*}しとげてごらんに入れます」
権助はほくほく喜びながら、女房のいいつけを待っていました。

「それではあの庭の松に登り」

女房はこういういつけました。もとより仙人になる術などは、知っているはずがありませんから、何でも権助にできそうもない、むずかしいことをいいつけて、もしそれができない時には、またむこう二十年の間、ただで使おうと思つたのでしょう。しかし権助はその言葉を聞くとすぐに庭の松へ登りました。

「もつと高く。もつとずっと高くお登り」

女房は縁先にたたずみながら、松の上の権助を見上げました。権助の着た紋付の羽織は、もうその大きな庭の松でも、一番高い梢^{すゝえ}にひらめいています。

「今度は右の手をお放し」

権助は左手にしっかりと、松の太枝をおさえながら、そろそろ右の手を放しました。

「それから左の手も放しておしまい」

「おい。おい。左の手を放そうものなら、あの田舎者は落ちてしまふぜ。落ちれば下には石があるし、とても命はありはしない」

医者もとうとう縁先へ、心配そうな顔を出しました。

「あなたの出る幕ではありませんよ。まあ、私に任せておきなさい。——さあ、左の手を放すのだよ」

① 権助はその言葉がおわらないうちに、思い切つて左手も放しました。② 何しろ木の上に登つたまま、両手とも放してしまつたのですから、落ちずにいる訳はありません。③ あつという間に権助の体は、権助の着ていた紋付の羽織は、松の梢から離れました。④ が、離れたと思うと落ちもせず、不思議にも昼間の中空へ、まるであやつり人形のように、ちゃんとたちどまつたではありませんか？

「どうもありがとうございます。おかげ様で私も一人前の仙人になりました」

権助はていねいにおじぎをすると、静かに青空を踏みながら、だんだん高い雲の中へ昇つて行つてしまいました。

医者夫婦はどうしたか、それは誰も知っていません。ただその医者の庭の松は、ずっとのちまでも残っていました。

(芥川龍之介『仙人』より)

※作問の都合上、文章の一部を改変しています。

* 紋付……和装の礼服。家紋の入つた着物のこと。

* 天竺……現在のインドのこと。

* 麝香獸……ジャコウジカなどの動物のこと。ジャコウはそうした動物が出すにおい。

* 太閤様……豊臣秀吉のこと。

* しとげて……「やりとげて」の意味。

問1 傍線部ア、エの漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。

問2 傍線部①「これには医者も困つたのでしよう」とありますが、医者が困つたのはなぜですか。その理由を説明したものととして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 権助を仙人にできる薬はないか番頭に相談されたものの、さすがに医者とはいえ仙人になる薬など持っているはずがなかったから。
- イ 権助が仙人になる修行のできる場所を番頭にたずねられたものの、医者自身もそのような場所に心当たりがなかったから。
- ウ 権助が仙人になる修行をしてほしいと番頭に頼まれたものの、医者はどのような修行が適切かすぐには思いつかなかつたから。
- エ 権助を仙人にしてほしいと番頭に頼まれたものの、権助が厳しい修行にたえられる根性を持っているか分からなかつたから。

問3 空らん X には体の一部を表す言葉が入ります。漢字一字で答えなさい。

問4 傍線部②「そっけなく横を向いてしまいました」とありますが、ここでの医者の様子を説明したものとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 権助が女房の言いつけにしたがって二十年間奉公したのに、今になって仙術を知らないと医者は自分の口からは言えず、そばにいた女房に責任をとってもらおうとしている。
- イ 権助は仙人になるためにはどんな仕事でもすると行っていたため、医者はさらに今後二十間にわたってただ働きさせることができると喜び、女房に新たな仕事を見つけてもらおうとしている。
- ウ 権助が苦しい修行をやりとげたことをじまんしてきたので、もともと仙人になれるはずがないと思っていた医者はあきれかえり、女房に権助をきつくしかつてもらおうとしている。
- エ 権助は仙人になれないことが分かり今までの給金を暗に求めてきたため、医者も権助をただで二十年間使ってきた義理を感じ、女房に給金の準備をしろおうとしている。

問5 傍線部③「女房は平気なものです」とありますが、女房が平気なのはなぜですか。その理由を説明した次の一文の空らん当てはまる部分を本文中から五十五字以上六十五字以内で探し、そのはじめと終わりの五字を答えなさい。

医者の女房は 五十五字以上六十五字以内 から。

問6 本文中の で囲まれた段落の①～④の文を朗読する場合の工夫として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ②までは見ている医者の期待がふくらむ様子が表れるように読み、③から④までは医者の期待が裏切られる様子が表れるように、スピードを上げて一気に読む。
- イ ②までは見ている医者の不安が大きくなる様子が表れるように読み、③から④まで少し声を小さくして、医者の不安が解消されている様子が表れるように読む。
- ウ ③までは見ている医者の不安がふくらむ様子が表れるように読み、④の直前に少し間を置いて、予想外の展開に医者や女房がおどろく様子が表れるように読む。
- エ ③までは見ている医者の期待が大きくなる様子が表れるように読み、そのまま続けて④では不思議な現象に、医者や女房があっけにとられる様子が表れるように読む。

問7 本文を読んだ後、Aさん、Bさん、Cさんは次のような会話を行いました。Aさんの疑問について、あなたならば何と答えますか。次の三つの条件にしたがって、あなたの考えを述べなさい。

- 《条件1》「権助」が人間たちに伝えたかかったと思われるメッセージを書くこと。
- 《条件2》「権助」と「医者の女房」のそれぞれの人がらにふれること。
- 《条件3》六十文字以内で書くこと。

- Aさん とても不思議な話だったね。それにしても権助はどうして仙人になれたのかな。
- Bさん まじめに二十年もの長い間、医者夫婦につかえて仕事をしたから、その純粋じゆんすいな気持ちがあつたと考えられるのではないかな。
- Cさん いや、権助はそもそも最初から仙人だったと考えることはできないかな。いくら田舎者だからといって二十年もの長い間ただ働きをしたり、木の上でいとも簡単に両手を放してみたりするのは、とても人間のできることだとは考えられないからね。
- Aさん なるほど。Cさんの言う通り、最初から仙人だったのかもしれないね。でも、そうだとすると、仙人がどうしてわざわざ人間の世界にやって来たのかしら。人間たちに何か伝えたいことがあつたのかな。

国 語

受験番号

氏 名

一

①

②

③

④

⑤

二

三

問1

ア

イ

ウ

エ

問2

問3

問4

問5

問6

問7

(1)

(2)

50 30 10

40 20

四

問1

ア

イ

ウ

エ

問2

問3

問4

問5

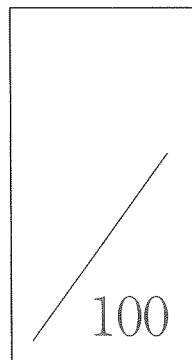
問6

問7

5

50 30 10

60 40 20



□

□

□

□

受験番号

氏 名

解答

- ① 安 ② 間 ③ 近 ④ 汽 ⑤ 禁

決勝戦前半は十点差で負けていましたが、後半開始早々、パスを全員で回すことで逆転し、最終的には二十点差で勝つことができました。

- 三
問一 ア 性質 イ 容器 ウ 体現 エ 再生
問二 エ

問三 どこで、どんな時間に、どんな姿勢、どんな気分で読むかということ。

問四 ウ

問五 (1) イ (2) ア

問六 情報としての読書

問七 ×

電子書せぎには、読む前の読書に必要な「本の『かたち』」がないため、本という文化が衰退するから。

四

問一 ア ふへい イ こと ウ ちようほう エ ふろっふし

問二 イ

問三 鼻

問四 ア

問五 何でも権助 くうと思った

問六 ウ

問七 医者の方房のように人をだます生き方と、権助の素直な生き方との違いから、正直に生きることの大切さを

伝えていると思います。

解説

三

問二 次の段落に説明があります。読まない読書というのは、読む前の読書ということであり、「読む」ということの前に、「本がここにある」ということの大事さを受けとめるという内容から、選択肢エが最も適切であることがわかります。

問六 傍線部④を含む「読まない読書というのは、本は読んで終わり、なのではないということですよ。」に着目します。第三段落に「読む読書ばかりが、つまり、情報としての読書ばかりが優先されるようになってきて、」という記述があり、「本は読んで終わり」と同じ内容である「読むばかりの読書」を「情報としての読書」と言い換えているので、この部分を抜き出します。

四

問二 傍線部①に含まれる「これ」とは、番頭の質問のことを指しています。「いかがでしょう？ 先生。仙人になる修行をするには、どこへ奉公するのが近道でしょう？」から、困った理由として医者も仙人の修行をする場所心当たりがなかったことが考えられるので、選択肢イが選べます。

問四 傍線部②の前から、権助は仙人になる術を教えてもらうために、医者の家で一文の給金もなく二十年間奉公していたことがわかります。とうとう二十年たち、権助は世話になった礼を述べ、仙人になる術を教えてもらいたいと伝えると、医者はいまさら仙術を知らないとは言えず、「女房に教えてもらうがよい」とそっけない態度をとったことから、最も適切なものは選択肢アであることがわかります。